

事例紹介

どんな時でも“お客様へのサービスを継続”するために、山形CDCのハウジングサービスを選びました

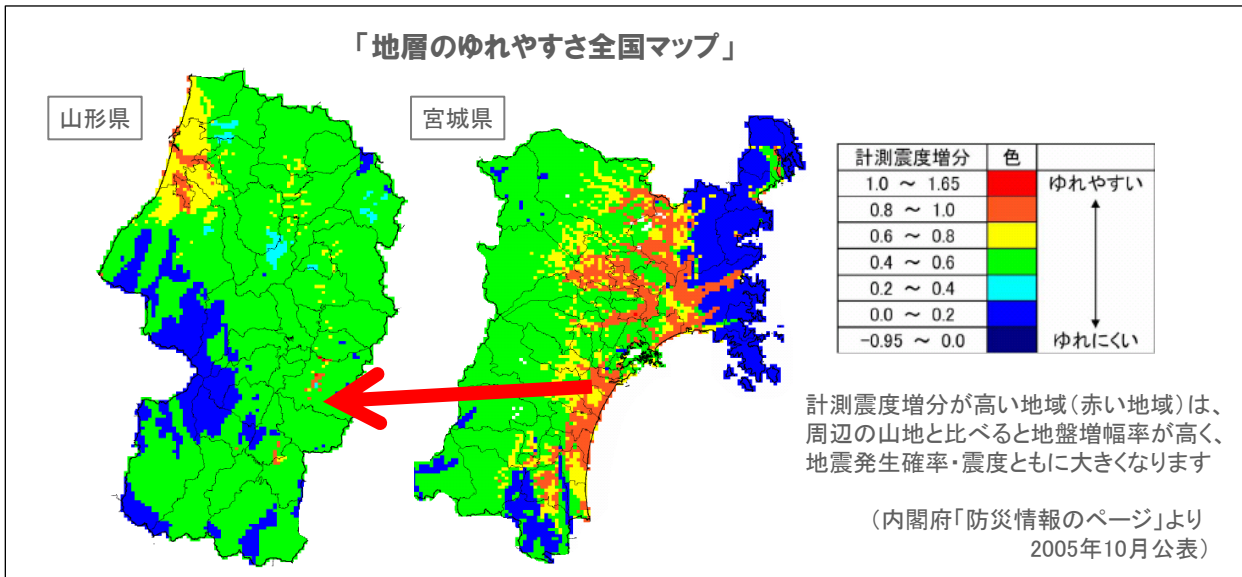
宮城県内の流通業 R社様

1. 山形CDCを選んだきっかけは？

去る3月11日に発生した東日本大震災、R社様が当時ご利用になっていたデータセンター（仙台市）でも大きな被害を受け、販売・受発注業務などの基幹システムが3日間停止してしまいました。このためお客様からのWEB注文が受けられないなど、お客様に大変大きなご迷惑をおかけすることになってしまいました。
 「大きな災害が起こった時でも、24時間365日、お客様に安心して安定したサービスを継続するために」、山形CDCのハウジングサービスを選んでいただきました。

2. どうして「山形」なんですか？

宮城県と隣接する山形県にも大小の活断層はありますが、地盤増幅率（地層のゆれやすさ）が低く、地震発生確率も低くなっています。気象庁に記録が残っている1925年以降でも震度6以上の地震は発生していません。今回の震災でも山形県内の最大震度は一部地域で震度5強が観測されましたが、山形市をはじめほとんどの市町村では震度4以下でした。震災による建物の損壊もほとんどありませんでした。
 また、新幹線や高速道路などの交通インフラも整備され、主要都市圏からの時間距離もぐっと近くなりました。



3. 山形CDCは安全ですか？

山形CDCの設備をご紹介します。

- (1) 建物構造・・・建物免震システム（震度“7”対応）
- (2) 電源設備・・・変電所受電ルート2系統（本系統＋予備系統）／電源設備の二重化（電源検査を無停電実施可能）／自家発電設備（72時間連続運転、以降は燃料継続補給対応）／無停電電源装置（10分以上）
- (3) セキュリティ対策・・・手のひら静脈生体認証／ICカード入室管理（ICカード＋暗証番号）／インターロック（二重扉の同時解放防止）／アンチパニック（入室時の共連れ防止）
- (4) マネジメントシステム・・・山形CDCはプライバシーマーク認証を受けています
 プライバシーマークは、個人情報の取扱いを適切に行う体制等を整備していることを認定された事業者であることを示す証です

※ 東日本大震災でも被害は全くなく、通常通りデータセンターサービスを継続いたしました。